

津川ともひさ知事候補 第一声

(1) 「憲法が輝く兵庫県政をつくる会」の津川ともひさです。

わたくしは29年間、高校の社会科教員として生徒と向き合ってきました。平和憲法を守る運動や、はたらく人のくらしと権利を守る運動に取り組んできました。

立候補を決意して七ヶ月、県下全域をまわり、多くの方からお話を伺いました。その中で、地域から学校がなくなり病院がなくなり公共交通機関がなくなっている、「地域が壊されている」、このことを強く感じました。

公立病院の総婦長さんからこう言われました。「私はこの町が大好きです。でも病院がなくなれば、私だって住み続けることができません。だからこの病院を守りたいのです」

地域の再生めざし、たくさんの方が頑張っておられることも知りました。

“人と地域を守る県政に変える”、その決意を新たにしました。

(2) わたくし=津川ともひさは、県政の方向を三つの柱で転換します。

第一は、県民の生活をささえ、地域経済を守る県政に変えます。

そのために若者と子育てを応援します。

- ① 返さなくてもよい奨学金を県独自でつくります。
- ② 県下からブラック企業をなくします。
- ③ 公立保育所を増やし、子どもの医療費は高校卒業まで無料にします。
- ④ 最低賃金はただちに1000円、そして1500円をめざします。
- ⑤ 国民健康保険と介護の負担を減らします。

いまの県政は企業立地補助金をつくり、パナソニック一社に131億円も渡しました。ところがわずか数年で尼崎から撤退してしまいました。

地域経済を守るカナメは企業の99%を占める中小企業・地場産業と農林漁業を応援することです。

わたくしは、住宅・店舗のリフォーム助成を行い、仕事をつくります。農林漁業を兵庫県の基幹産業と位置付け、振興を図ります。

無駄な大型公共事業をやめれば「人と地域を守る」財源は十分生まれます。

第二に、わたくしは原発ゼロ、再生可能エネルギーを本気で進める県政に転換します。

兵庫は福井県の原発から50キロ圏に接しています。近畿の水がめ=琵琶湖もあり、事故が起きれば大変です。ところがいまの知事は関西広域連合長として、大飯原発の再稼働を容認しました。本当に残念です。

わたくしは政府に「再稼働反対」とはっきりものを言い、「原発ゼロ」の決断を求めます。地域経済の活性化と雇用にも結びつく、再生可能エネルギー先進県をめざします。

第三に、わたくしは平和にこだわる県政を推進します。

安倍政権は戦争法を強行し、2020年という期限を切って憲法9条を変えようと言いました。

「教え子を再び戦場に送らない」、これは教員だった私の原点です。わたくしは「戦争する国づくり」は許しません。

いまの県政は、姫路港に三度もアメリカの軍艦を入港させ、中学生に軍事訓練まで体験させています。

わたくしは「非核平和兵庫県宣言」をします。核兵器を積んだ軍艦は港に入れず「非核神戸方式」を県下すべての港にひろげ、兵庫から平和の声を発信します。

わたくしは、「人と地域を守る県政」に転換します。

安全・安心な兵庫、くらし優先の兵庫を必ず実現します。

どうかあなたのご一票を、津川ともひさにお寄せ下さい。

ありがとうございました。